

「創造への挑戦」紙の新しい可能性を拓く日本紙通商

日本製紙グループ

日本紙通商株式会社

心 を伝えるコミュニケーションには、
いつでも紙があります。

The logo consists of a stylized 'N' shape composed of three horizontal bars of increasing length from left to right, followed by the text 'NIPPON PAPER' in a serif font. Above the logo, the slogan '技術があるから夢がある' is written in a bold, black, sans-serif font. Below the logo, the company name '日本製紙パピリア株式会社' is written in a large, bold, black, sans-serif font.

復興へ 着実な歩み進める



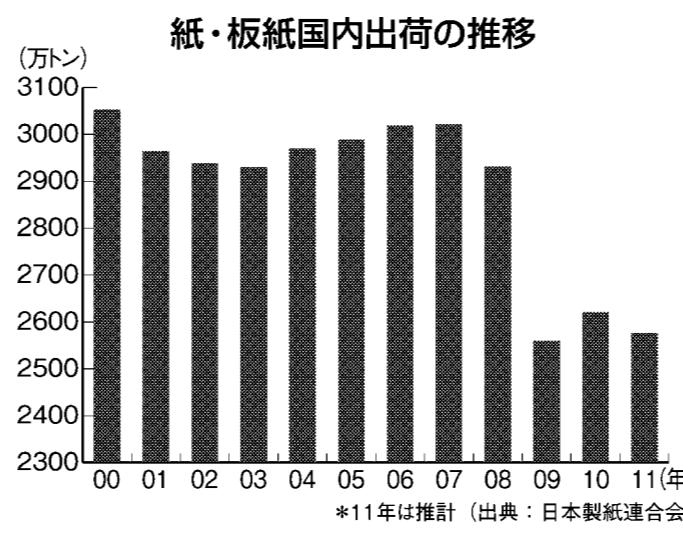
王子製紙の社有林。左半分が間伐前、右半分が間伐後



FSC認証マークを付けた王子
ネピアのティッシュペーパー



黒液は燃料として利用できる



認証制度 保全に活用

また、持続的な森林利用を促進するために、きちんと管理された森林から生産された木材を用いて製品を作り、消費者に届けていることを第三者機関によって認証してもらう森林認証制度がある。森林管理協議会による森林認証制度は、森林の管理や伐採が環境や地域社会に配慮されているかどうか、流通・加工時に認証を受けていない林産物が混ざらないようにしているかを評価する。認められた製品は「FSC認証マーク」を付けられる。

王子ネピアが行つた全国の女性800人を対象に行つた意識調査では、FSC認証マークを知らない割合が89%にも達した。だが、FSC認証マークの意味を説明した後では、FSC認証マーク製品の購入に前向きな意見が半分以上を占めた。王子ネピアがティッシュから纖維を取りだしバルブを生産する際に発生する黒液は、燃料として

シユペーパーやトイレットペーパーでFSC認証を受けた製品を販売するなど、各社はこれからも森林認証を通じて森林保全に貢献していく。さらに、「こうした森林保全に加え、紙を生産するときに用いるエネルギー」では、化石エネルギー使用量を90年度比で30%の削減や、脱化石燃料を促進する設備技術の開発推進などを盛り込んでいく。

一方で、製紙会社は環境に配慮した取り組みを行っている。原料の木材チップが貢献したのが昨年の夏の電力不足対応だ。紙は大型の設備を用いて大量

燃やすことができる
製紙会社は、この黒液
に加え、パルプくずや木
質がれきといった廃材を

植林推進、道路整備も

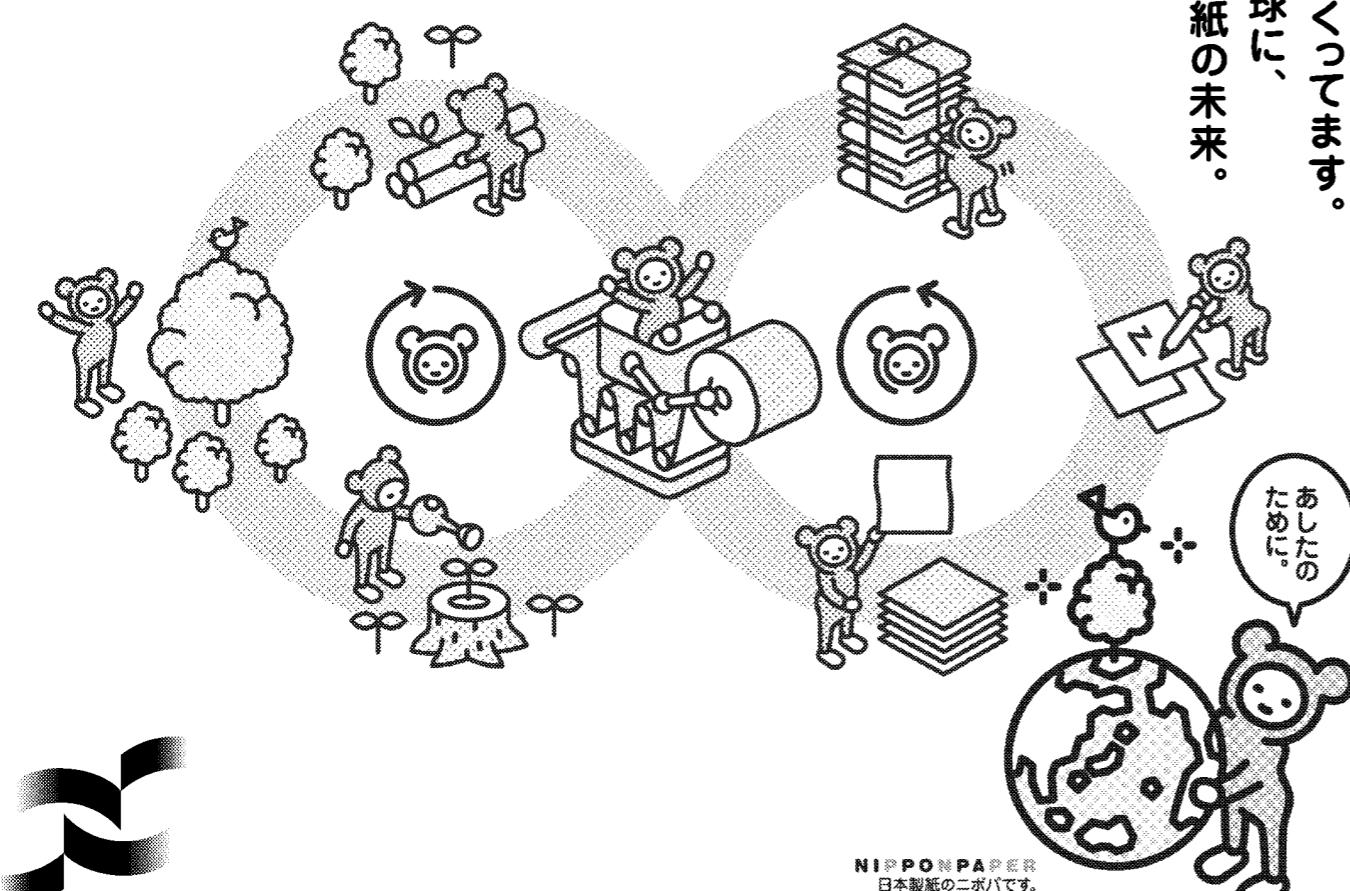
東日本大震災で大きな影響を受けた製紙業界だが、着実に復興の兆しをみせていく。日本製紙グループ本社は主力工場の石巻工場（宮城県石巻市）が被災したが、2011年9月に同工場の操業を再開した。その後、順次設備を稼働させている。同じく主力工場が津波の浸水被害を受けた三菱製紙の八戸工場（青森県八戸市）も5月から操業を再開し、11月には7台の抄紙機すべてを再稼働させ、完全復旧を宣言した。これら一部工場が操業を停止している間は、他工場や他社から代替供給をするなどし、業界全体で紙不足が起らないよう努めてきた。

健全な森林育て 持続的に利用

板紙堅調今年の紙需要は微増見込み

紙の未来へ—日本製紙のモノづくり。

（三）小波分析的逆滤波。



NIPPON PAPER
INDUSTRIES

「読む」「書く」「包む」など、紙は毎日の暮らしに欠かせない大切な素材。そして、自然の恵みである「木」を原料とする紙は「使ったら終わり」ではなく、再生が可能な循環型素材です。環境に配慮した“地球にやさしい紙づくり”を基本とする